

「新時代における徳島県公立高等学校の在り方検討会議 報告書」について

○提言の概要

1 「公立高等学校の特色化・魅力化を図るための方策」について

- (1) 中学生の進路選択や高等学校の特色化・魅力化に向けた取組等に、スクール・ミッション、スクール・ポリシーが活用されることを期待する。

※スクール・ミッション 県教委が定める各高校の存在意義や期待される社会的役割

スクール・ポリシー スクール・ミッションを受けて各高校が定める教育活動の方針

- (2) スクール・ミッション、スクール・ポリシーに基づく教育活動の評価を行い、教育活動の改善につなげることを期待する。
- (3) 普通科の特色化・魅力化に向けて、特長がわかりにくい普通科においては、多様な教育活動を取り入れるなど、より一層の工夫を期待する。

2 「公立高等学校の協働的な学びの確保に向けた方策」について

- (1) 各高等学校の切磋琢磨や、地域社会、各種団体等との連携を通じて、生徒の可能性を広げることにつながる魅力ある協働的な学びを創出していくことを期待したい。
- (2) 必要な教職員数を維持し、学校の活力や多様性を確保するためには、一定の学校規模を確保することが望ましい。
- (3) 地域ごとの生徒数の減少や、地域振興の核としての役割、地元地域への影響を踏まえた上で、適正配置、再編統合による特色化・魅力化を図る視点も必要である。

3 「公立高等学校の地域の拠点としての施設の利活用の方策」について

- (1) 子どもたちの学びの場としての利活用や、学校施設と社会体育施設等とが複合化した施設としての利活用等の観点から考えられるのではないか。
- (2) 将来的な生徒数の減少を見据えつつ、地域等が必要とする利活用の在り方を模索してほしい。